

夏が旬の野菜の支出

一家計調査結果より



6月も半ば、気温も徐々に上昇し、夏本番が近づいています。この時期は湿度が高く、過ごしにくい季節ですが、多くの種類の野菜が旬となり、おいしく食べられる時期でもあります。今回は、二人以上の世帯の結果から、夏が旬の野菜のきゅうり、なす、トマトについてみてみましょう。

購入数量は5～8月にピーク

最初に、夏が旬の野菜の1世帯当たりの購入数量の推移を月別にみてみましょう。どの野菜も、夏に近づくにつれ購入が多くなる一方で、夏が過ぎると減少しています。また、野菜ごとの購入のピークは異なっており、きゅうりは5月、トマトは6月、なすは8月となっています(図1)。

平均価格は、夏に低い

次に、平均価格(購入単価)を月別にみてみましょう。平均価格は夏にかけて低くなり、冬にかけて高くなるという動きをしていることがわかります。なお、トマトが9月に大きく値上がりしていますが、これは、トマトの旬が終わり、この時期に出荷量が減少することに加え、2015年の台風や、2017年の長雨が影響しているとみられます(図2)。

年齢階級が上がるにつれ、購入数量が多い

最後に、世帯主の年齢階級別の1世帯当たりの購入数量をみてみましょう。3つの野菜の合計を比較してみると年齢階級が上がるにつれて、購入数量が多くなっています。また、60歳以上の世帯の購入数量は、39歳以下の世帯の2.2倍となっています(図3)。

図1 きゅうり、なす、トマトの月別購入数量(2015～2017年平均)

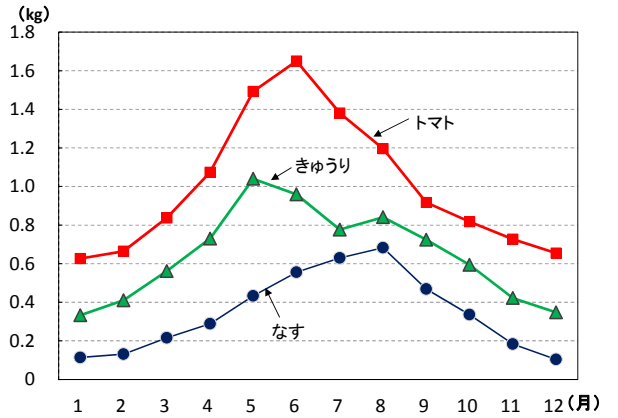


図2 きゅうり、なす、トマトの月別平均価格(2015～2017年平均)

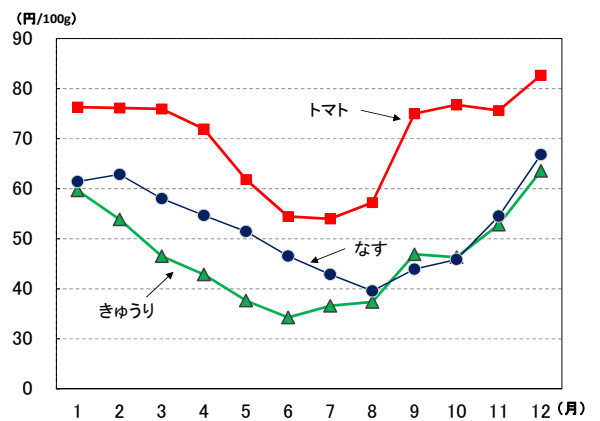


図3 きゅうり、なす、トマトの世帯主の年齢階級別年間購入数量(2015～2017年平均)

